

きんぎょタクシー3台目導入



エアコンを町内小中学校の普通学級に設置



新春特集

高齢者支援施設げんきの館を開設



金魚の館 来館者77万7千人突破



『未来』

長洲産ミニトマトのブランド化へ



幼児英語教育のスタート



2017年、新しい年の幕開けです。
2016年、皆さんはどのような年でしたか。
昨年は、4月に熊本地震が起き、不安な日々を過ごした人も多かったと思います。
町でもさまざまな事がありました。
そこで、今号は新春特別号として2016年の町で起こった出来事を振り返り、そこから見えてくる町の未来への可能性を考えます。
町の歩む未来とは――



町民の皆さんと一緒に

着実な歩みをー

行っており、六栄校区の新しいまちづくりを期待しているところです。

まちづくりの信念は・・・

各行政区、企業や各種団体などとの座談会をとおして様々な意見交換を行い、町民の皆さんの「想い」を汲み取り、そして、それをまちづくりに活かしていくことが、私のまちづくりに対する信念です。町民の皆さんと一緒にまちづくりを

これからまちづくりは・・・
産官学の連携による地方創生に向けて・・・

推進し、これからも着実な歩みを進めていきたいと考えております。

現在、長洲町は「活気にあふれた町」へと変わりつつあると実感しているところです。しかし、定住化の促進として六栄校区の宮野住宅の建替えや長洲駅南側の開発促進、

め、平成29年4月より開設の運びとなりました。
産業に目を向けますと、農業はミニトマトの生産地としてのブランド化を図り生産額の向上を図るために、施設整備に対する支援や農業の生産データを蓄積し、効率的な作物の栽培を目指す「ICTを活かした農業」に取り組んでまいりました。

水産業では、海苔生産において新規に町内企業が参入し、さらな

る海苔養殖業の振興が期待されています。また、アサリの復活に向け、福岡大学や熊本北部漁業協同組合と連携し、干潟のヘドロの除去を進め環境改善の取り組みをさらに進め、有明海の再生に向けて新たな一歩を踏み出しております。

観光につきましては、平成24年5月にリニューアルオープンした金魚の館には多くの人が訪れ、28年11月には77万7千人の来館者を

迎えることができました。これからも、情報発信の基地として、長洲町の魅力を全国に発信していきたいと考えています。

定住化に向けた取り組みとしては、高浜地区内の道路整備を行うなど、駅南側の開発が進められております。また、老朽化した宮野地区の住宅につきまして、子育て世代が住む「地域優良賃貸住宅」の建設に向け事業者の公募を

有明海沿岸道路の延伸、都市計画道路「赤田・上沖洲線」の整備、腹赤校区における「第二腹赤地区」の圃場整備事業の推進をはじめとする社会資本の整備や、少子高齢社会への対応など、残された行政課題がたくさんあります。

そのような中において、「ICTによるまちづくり」を推進するため（株）NTT西日本熊本支店と、健康づくりや地域資源を活かした商品開発に取り組むため（株）ディーエイチシーと包括連携の協定を締結しました。さらには、九州看護福祉大学、崇城大学といった県内の大学とも包括協定を締結しており、今後この産官学の連携を通じて地方創生に向けたまちづくりを加速し、長洲町の更なる発展につなげていきたいと考えています。

最大で約20億円ありました公共下水道特別会計の赤字を町民の皆さん、議員の皆さんのご協力により解消した今こそ、「一歩一歩、新たなまちづくり」を進め、「夢と希望と活力あるまちづくり」を推進し、町民一人一人が幸せを実感し「住みたい・住んでよかった」と思える長洲町を町民の皆さんと一緒に取り組んでまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

中逸町長 年頭あいさつ

「一歩一歩、新たなまちづくり」へ



「住みたい・住んで良かったと思えるまち」の実現に向け、各種政策を展開する中逸町長。

その先に見据える展望は、そしてその原動力となるものは何か！

2017年の幕開けにあたり、中逸町長の思いを聞いたー

新年あけましておめでとうございませう
平成29年の新春を迎え、町民の皆様は心よりお慶び申し上げますとともに、日頃より町政運営に對しましてご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年を振り返って・・・
突然襲った熊本地震・・・
災害に強いまちづくりの大切さを痛感！

昨年は何と言いましても、4月に熊本地震が発生し、町でも14日に震度5弱、16日に震度5強の地震に見舞われ、延べ約1,000人の人が自主避難しました。町では、人的被害などの大きな被害は無くまずは一安心しているところです。

地震発生後、町では被災地への後方支援として職員の派遣や被災地のゴミの受け入れ、国から派遣された家屋診断士への宿泊施設の提供など、さまざまな支援を行ってまいりました。今後も、熊本地震の復興に向けて皆さんと一緒に支援していきたいと考えております。

また、災害に強いまちづくりの大切さを痛感しており、安心、安全な町「ながす」に向けて、より一層努めていきたいと思っております。

新たな事業の展開・・・
地方創生が叫ばれる中、これまで育んだ芽が大きく開花した年・・・

まず、教育に目を向けますと、全小中学校普通教室へのエアコン設備や地中熱換気システムの導入等により、PM2.5、ウィルス、花粉、黄砂などの衛生面に配慮した教育環境の整備を行ってまいりました。また、保育園・幼稚園からの英語教育を実施し、さらには、生きる力を身に付け、学力の向上を図るために、寺子屋塾や、ふるさと塾、夢の教室などを展開してまいりました。

福祉におきましては、町内32カ所に整備された介護予防拠点施設を中心に、高齢者の元気づくりを推進してまいりました。そして、平成28年4月に高齢者支援施設「げんきの館」を開館させ、高齢社会における充実した地域福祉の展開を図ってきました。また、地域の高齢者の移動手段として、「きんぎょタクシー」の更なる利便性向上のため、平成28年10月より3台目を導入し、安心して暮らせる環境を整備してまいりました。

子育て支援につきましては、子育て支援の拠点となる「子育て世代総合支援センター」の整備を進